

三到図書館 ニユース

- 三到図書館に思うこと
- 「人生を考える一冊」に出会おう
- 読書運動プロジェクト
- アンケート調査と結果報告
- 図書システム更新のお知らせ
- データベース講習会について



OBIRIN UNIVERSITY LIBRARY

三到図書館に思うこと

文学部 植田 渥 雄



創設のころ

桜美林図書館との出会いは1968年、創立間もないこの大学に私が中文科非常勤講師として赴任してきたことであるから、もうかれこれ40年近くになる。その頃はまだ三到図書館はなく、今年取り壊された学而館の地階の一角、いままで分館のあった所を図書館と称していた。図書館というより図書室と言った方がふさわしいものであった。収蔵図書も極めて貧弱で、認可のために急遽購入したものの、中・高・短大生の父兄や、創立者をはじめ心あるキリスト教関係者からの寄贈図書などがその全てであった。出入りする学生の姿は極めてまれで、内部はいつもひっそり閑としていた。その頃の私といえば、初めて大学の教壇に立つことの緊張と興奮が先にたって、大学図書館というものに対しては、正直言ってさほどの知識も関心もなかった。当時の印象はと聞かれば、新設大学の図書館とはこんなものか、という程度のものでしかなかった。

それから一年後、中文科専任講師として採用されたとき、星川清孝先生が学科長として同時に着任された。星川先生は『楚辞』の研究者として読売文学賞を受賞されたこともある、中国古典文学の泰斗ともいべき方であっただけに、図書館については人一倍強い関心を持っておられた。着任早々まず図書館を見たいとおっしゃり、私が案内することになった。先生は無言のまま一通り中文関係の蔵書をご覧になった後、ひとこと「何もありません」と、誰に言うともなく低い声で咳かされた。

星川先生はその後9年間にわたる在職期間中、図書館蔵書の充実に腐心される一方で、毎年研修

旅行を企画され、学生を引率して全国の漢籍蔵書で有名な図書館を訪問された。ご高齢の星川先生に代わって石川忠久先生が引率されることもしばしばであった。私も何度かお伴をしたことがあるが、私が多少なりとも図書館に関心を持つようになったのは実にこの両先生のおかげである。もちろん学生からも大いに歓迎された。

現在の三到図書館ができたのは、確か星川先生が着任された2、3年後であったと思う。「三到」とは、朱子学の開祖朱熹の唱えた読書法で、「眼到」（目で読み抜く）、「口到」（口で読み抜く）、「心到」（心で読み抜く）という意味である。ここでいう「到」とは最後まで徹底的にやり抜くという意味である。「三到」の中でも朱熹は「心到」を最も重視した。「本は心で読むものですよ」と、自ら命名したその由来を話された清水安三先生の得意げなお顔が今でも私の胸に焼きついている。「心で読む」といえばなるほど聞こえはいいが、今にして思えば、貧弱な蔵書に対する安三先生一流の言い訳も含まれていたのかもしれない。

落成当時の三到図書館は、外観といい、蔵書スペースといい、学生総数せいぜい2000人規模の新設大学としては、安三先生が自慢されたように、立派過ぎるほど立派なものであった。向こう20年間はまず大丈夫、というのが当時の共通した思いであったように思う。

今に残る問題点

大学創立当初の図書予算の仕組みは今から思えばずいぶん変わっていた。各学生から授業料とは別途に一定額の図書費を徴収し、そのうちの何割

かを図書館独自の基本図書購入分として確保し、さらに何割かを一般教育図書の購入に当て、残った分を文学部と経済学部が学生数に応じて山分けするというものであった。図書予算の総枠は図書購入の必要度とは無関係に、その年の学生数によって決まる。予算の増額を図るためには学生から徴収する図書費を値上げするほかないが、そのようにすれば学生自治会から強烈な批判を浴びることになる。学園闘争の洗礼を受けた当時の学生は今思うほどに従順ではなかったのである。その結果、乏しい予算の配分枠を巡って、学部内あるいは学部間で激しい対立が起こることもしばしばであった。そしてその対立の矢面に立たされるのが図書委員であったことは言うまでもない。

どんぶり勘定ともいえるこのやり方には、当然のことながら各方面から批判の声が上がった。議論は幾度となく蒸し返され、そのたびに何がしかの改良が加えられ現在に至っているが、図書委員が各学部学科の利益代表でしかあり得ないという状況には、あまり変化がないように思われる。宮下館長が図書委員会ですべて強調されているように、大学図書館としての蔵書のあり方を抜本的に見直し、本学独自の蔵書ポリシーを確立するには、特徴蔵書の設置等、現に一部の成果は認められるとしても、克服すべき課題があまりにも多いと言わざるを得ない。

しかしこの次元の問題の解決は、もはや図書委員会の任務を超えたものである。新たに発足する体制の下で、大学における研究・教育の根幹とも言うべき図書館をどうするのか、大学ぐるみで真剣に考える必要があるかと思う。一方、このように多くの問題を抱えながらも、70年代以降は公費助成も加わり、蔵書は確実に増えていった。中文関係図書について言えば、栃尾武先生、山崎純一先生、丸山昇先生等々歴代図書委員の先生方の努力の甲斐あって、事典、叢書等の基本図書についてはほぼ出揃った観がある。今後の課題としては、新体制の下で、新しい研究成果をいかに吸収するかという点になるかと思う。

さて、そのことと関連して、ここ数年の間に、困った問題が生じている。それはスペースの問題である。設立当初、20年間は大丈夫と思われた三到図書館もすでに35年を経過し、収蔵能力は限界をはるかに超えてしまった。長年苦勞して買い揃えてきた基本叢書の類も、そのほとんどが別置という形で学外の業者の倉庫に保管され、学生や教員の目に直接触れることがなくなってしまったのである。

新図書館建設への願い

いま本学の図書館は基本的には全て開架式になっており、このことに奇異の感を抱く方もおられると思うが、これは創立者清水安三先生の当初からの主張であった。その理由は、専門性の高い学術書の内容を学生に理解させることは難しいが、その表紙を眺め、パラパラとページをめくってみることぐらいは誰にでもできる。そしてそのことが学生を学問の世界に誘う手がかりになり得る、というものである。ご自身の体験からこのような主張が生まれたものと思われるが、これには当初から破損や盗難防止の面で異論があったことも事実である。しかし本学では今でもこの方式を踏襲している。したがって別置というやり方を今後も継続させるとなると、創立者の主張は根本から無視されることになる。開架にするか閉架にするか、あるいはその併用にするかについては今後も検討の余地があると思われるが、別置となると話は別である。別置の図書を取り寄せるには時間を要する。即日というわけにはいかない。これでは他の図書館を利用した方が手取り早いことになる。しかも別置にかかる委託管理費用も半端ではない。止むを得ない事情があるにしても、別置はあくまで緊急避難的な措置であるべきである。

別置の不便さについて一例を挙げておこう。日中古典文学の粋を集めたものに『有朋堂文庫』というのがある。明治末年から大正初期にかけての出版で、これに類するものは二度と出版されることはないであろうと思われるものであるが、中に『水滸伝』と『三国志演義』の江戸時代の翻訳が収められている。それには葛飾北斎の筆になる絵図が付いていて、これがなかなか面白い。視覚を通して学生を日中比較文化の世界に誘うには格好の材料なので、その一部をコピーして学生に配ろうと思って図書館に行ったところが、見当たらない。別置されているのである。これに似た経験は何度もある。さらにもう一つ例をあげると、南宋時代の社会風俗を記したものに『武林旧事』というのがある。当時の芸能界の様子が一覧表で示されたりして、文化史的にみてもなかなか面白い資料である。学部の学生が直接読みこなすのは困難であるが、一部をコピーして解説を加えれば十分に学生の興味を引くことができる。これは『武林掌故叢編』に収められているが、この叢書もいつの間にか別置されてしまった。このような苦い経験を味わうたびに、「何もありませんな」という星川先生の40年前の呟きを、私はつい昨日のこのように思い出す。

新三到図書館の建設を一日も早く願う所以である。

「人生を考える一冊」 に出会おう

副館長 堀 潔



「図書館はどういう場所か」と問われれば、学生諸君にとって図書館は「勉強をする場所」であり、勉強したくない人にとっては、まさに「無用の長物」ともいうべき場所かもしれない。しかし、私は学生諸君に、「人生を考える場所」として図書館を見てほしい、と考えているのだ。

人はしばしば、一冊の本によって大きな影響を受けることがある。私の尊敬する知人で某大手企業に勤務する松山真之助さんは、早起きを薦める一冊のビジネス本がきっかけで、朝4時に起きて始発電車で通勤するようになった。それまで、都心まで毎日片道2時間の通勤時間は満員電車で揺られる「痛勤」時間だったが、空いた電車で揺られる快適な時間へと変わった。毎日一冊、朝の通勤電車で本を読み、書評を書いてインターネットで発信したことから多くの著者や読者たちと交流が生まれた。彼自身もまた何冊かの本を執筆し、現在では、本業の傍ら、経営セミナーの講師や大学の客員教授を務めるまでになっている（余談だが、本学にも昨年度、講演に来ていただいた）。



3F企画コーナー

誰も、就職して、社会に出て、成功したいと思うだろうが、「成功するための秘訣」などあるのだろうか。イトーヨーカ堂の創業者である伊藤雅俊氏は、彼の著書のなかで、「『お客さまとお取引先を大切にする』『嘘をつかない』『感謝の心を忘れない』といった、商いというよりも、人間としての基本を毎日毎日飽きずに繰り返してきたと申し上げる以外にない」（『商いの道～経営の原点を考える～』より）と述べている。松下幸之助氏も、彼の著書『社員心得帖』のなかで「会社に入って、少なくとも部長には間違いなくなれるという秘訣がある」と述べている。意外なほど簡単なことなのだが、知りたかったら同書を手にとってみよう（本館3階の企画コーナーにあります。写真左）。

経営者が書いた本でも学問書でも、はたまた小説でも、人々の考えや行動に大きな影響を与える本は数多くある。学生諸君がそうした「人生の参考書」と出会い、自らの将来について積極的に考える。図書館がそういう場所になれるよう努力していきたいと思う。

副館長おすすめの『人生を考える3冊』

松山真之助（2005）
『仕事と人生に効く100冊の本』秀和システム

伊藤 雅俊（2005）
『商いの道～経営の原点を考える～』PHP研究所【新装版】

松下幸之助（1981）
『社員心得帖』PHP研究所



読書運動プロジェクト



読書運動プロジェクトって何??

毎年テーマを決めて、学生や大学教職員から募集した優れた本をみんなで共有し、その本やテーマに関する様々なイベントを行なって、大学に本を通じた「対話のコミュニティ」の輪を広げていこうというプロジェクトです。難しいことはありません。読書運動の基本は簡単、以下の3つです。

- 1 **本を読もう!**
読書の楽しさにふれてみよう
- 2 **コメントカードを書こう!**
自分の思いをまとめてみよう
- 3 **読書会をやろう!** 読書から生まれる感動や疑問などを語り合おう

4月から9月までに以下のイベントを開催しました!

【読書会】 第1回 6月13日(火) ドルトン・トランボ『ジョニーは戦場へ行った』
 第2回 7月11日(火) 井伏鱒二『黒い雨』

【Lib Cinema】 戦争と平和がテーマの映画やドキュメンタリーの上映会
 第1回 5月22日(月) 『911ボーイングを捜せ：航空機は証言する』
 第2回 6月12日(月) 『911ボーイングを捜せ：航空機は証言する』の英語版
 留学生も交えて9.11の背景やアメリカにおけるマイノリティの問題を議論しました。
 第3回 7月4日(火) 『ジョニーは戦場に行った』(1971米)

イベント参加者の声

読書会に参加している人たちみんなで、一つの本について感想や心に残ったことを言い合いました。人によって注目しているところや、本から受ける感じかたが違って、自分とは違う感想が聞けました。こんど読み返すときには、見方を変えてみようとか、注目してみようと思えました。またみんな共通に読んだものなので盛り上がる事ができました。読書会はとても良いと思えました。
 田村雄一郎くん(経済3年)

もともと本は読まなかったのですが、楽しく参加させてもらっています。様々な感想を聞くことは自分の考えの刺激になっています。また出していたお菓子を食べながら進められる雰囲気が息抜きにもなっています。
 松下友美さん(経済4年)

戦争文学ということで個人的にはあまり読まないジャンルでした。読書会の集まり自体は少人数でじっくりと話し合えるような環境でした。戦争文学に興味がある人は参加してみてもいいのでは?
 田中柱輔くん(経済3年)

日本に来てから日本語をばかり使っていて考えているので、急に英語版の映画を見てもすぐに対応することが難しかった。しかし映画を見た後、日本人や他の国の留学生から9.11についての考えを聞いて、勉強になったと思います。とても良い体験でした!
 鄭琬馨さん(留学生・台湾)

初めて日本の学生たちと一緒に映画を見て討論して、とても楽しかった。いろいろな知識を得ることができました。私の日本語はあまり上手ではないけど、先生も日本人の学生もとても親切で、討論したときもあまり緊張しません。このような活動は私にとって本当に有意義だと思います。また機会があれば参加したいです!
 郭益名さん(留学生・中国)

9.11について、もともとそんなにたくさんの方を持っていませんでした。この映画を通して現在の日本の大学生の考え方もわかった。私にとって「戦争」という言葉はいつも想像の世界にあります。しかし9.11の映画を見た後、世界平和というのは理想的なこと、現実的には難しいかも?と感じました。
 江佳容さん(留学生・台湾)

学生プロジェクトメンバーも大募集!

一緒にプロジェクトの企画・運営をやりませんか? 詳しくは、桜美林大学図書館まで!!!
【お問い合わせはこちらまで】 メールアドレス: dokusho1@obirin.ac.jp

戦争文学ベスト30 貸出上位ランキング発表 (4/1~9/30)

1	夜と霧 (新版)	19人	人間とは何かを問いかける永遠の一冊
2	ジョニーは戦場へ行った	16人	生ける屍と化した兵士の哀しくも美しいモノローグ
3	誰がために鐘は鳴る(上・下)	15人	スペイン戦争に参加したアメリカ人青年の苦悩を描く大作
4	イラクの小さな橋を渡って	13人	戦争は人々の生活に何をもたらすのか?
5	アフガニスタンの診療所から	13人	戦争をはじめとするさまざまな問題に取り組む人々がここにいる
6	ゾフィー21歳 ヒトラーに抗した白いバラ	12人	人間の誇りを失わず処刑された学生たちは、戦後ドイツの良心となった
7	ビルマの豎琴	10人	今も異郷に眠る戦没者の魂は、いったい誰が弔えばいいのだろうか?
8	少年H(上・下)	9人	おとなが兵隊さんなら子どもたちは小さな兵隊さんだった時代の物語
9	黒い雨	8人	原爆の惨禍と悲劇を後世に伝える不朽の名作
10	本当の戦争の話をしよう	8人	散歩の途中でコンビニに入って缶コーヒーを買うような戦地の日常
11	西部戦線異状なし	7人	祖国を守るという純粋な心が残酷に裏切られる青年の苦悩を描く
12	アメリカひじき・火垂るの墓	7人	戦争がもたらした悲劇と喜劇、不条理を独特のリリシズムで綴る
13	ちょっとピンボケ	7人	戦場に生き戦場に散った名カメラマンが綴る戦争の真実
14	スローターハウス5	6人	S F じたてで戦争の悲惨さと虚しさを伝えるカルト的名作
15	9をまく	6人	あなたは日本国憲法第9条を知っていますか?
16	ベトナムロード:戦争史をたどる2300キロ	6人	かつてインドシナ半島が砲火に煙っていた時代があった
17	ひめゆりの塔をめぐる人々の手記	6人	女学生たちでさえ戦場に駆り出される。それが戦争だ
18	灰色のノート(チボー家の人々1)	4人	戦争反対と平和を願うすべての人に贈る大河小説
19	祖父の戦争	3人	家族の戦争体験に耳を傾けてみよう。戦争は決して遠い過去のことじゃない
20	野火	3人	私八何故ココニイルノダロウ・・・極限状況の兵士の姿を静謐に描いた名作
21	戦艦大和ノ最期	3人	巨大戦艦を巡る人々の思い。大和の最期は読者に何を語りかけるのか?
22	戦中派不戦日記	3人	今日あなたは何をしていましたか? 明日も平和であると言い切れますか?
23	生きてゐる兵隊	2人	聖戦という虚飾のもと、泥にまみれて戦う兵隊の姿を見よ
24	与太郎戦記	1人	まいどバカバカしい戦争のおはなしを一席申し上げます
25	ブリキの太鼓	1人	少年が太鼓を叩くとき日常に暗い影が射す。現代文学の奇跡
26	断作戦	1人	風化してゆく戦争の記憶を語る日本兵はあなたの家族かもしれない
27	落日燃ゆ	1人	庶民には庶民の戦争があったように、政治家には政治家の戦争があった
28	帰らざる夏	0人	軍国主義思想に染まった少年たちの悲劇。教育とはかくも両刃の剣であることか
29	マリコ	0人	戦闘とは、人間とは、祖国とは何か? マリコはあなたかもしれない
30	時刻表昭和史	0人	戦時下という異常な時代にも鉄道は黙々と走り続けていた

番外編 (チャレンジ長編)

戦争と平和/トルストイ	1人	あまりにも有名な世界文学の名作。これを機会に通読してみたいかが?
人間の条件/五味川純平	1人	中国で戦った日本兵を軸に時代に翻弄された人々を描いた大河小説
レイテ戦記/大岡昇平	0人	太平洋戦争最大級の悲劇を克明に記録した戦記文学の名作
チボー家の人々/ロジェ・マルタン	1人	戦争反対と平和を願うすべての人に贈る大河小説

コメントカード&エントリー大募集!

戦争文学ベスト30・読書マラソンにトライしよう!

1. マラソンにエントリーしよう!
2. 1冊読んだごとにコメントカードを出そう!
3. 次に何を读もうか? (皆さんのコメントカードが紹介されます)
4. めざせ30冊! 10冊ごとにご褒美。(コメントカードで数えます)

10冊ごとにごほうびとして
生協の利用券など

一番多く読んだ方には
図書館長賞

コメント大賞
『金・銀・銅』賞
皆さんのコメントカードより、
良かったものを表彰!

読書マラソンのエントリーや
お問い合わせは生協まで...

アンケート調査と結果報告

図書館では2006年6月12日～24日の間、図書館利用
についてのアンケート調査を実施いたしました

図書館利用者アンケートにご協力ありがとうございました。
集計結果を下記にご報告申し上げます。
貴重なご意見をいただきましたことに厚くお礼申し上げます。
改善すべき点は可能な所から早急に取り組んでまいります。
今後とも大いに図書館をご活用くださいますよう
切に希望しております。

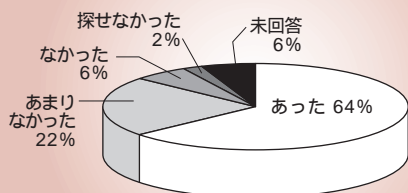
図書館長



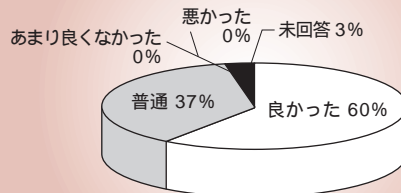
アンケート回答総数 414件（実施期間：6月12日～6月24日 本館・情報メディア室で実施）

学部・短期大学部生	大学院生	教職員	その他	未記入
357人	25人	10人	11人	11人

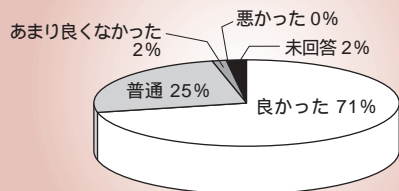
A. 求めている資料はありましたか？



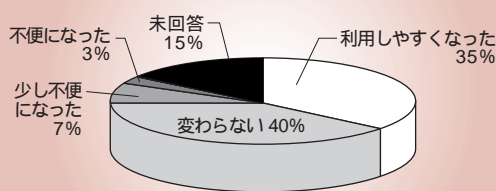
B. 図書館員のサポートは適切でしたか？



C. 図書館員の態度は適切でしたか？



D. 今年度より雑誌・新聞は本館1Fに移転しました。以前に比べて利用しやすくなりましたか？



..... 多かったご意見

「資料が古い」、「PCが少ない」、「暗い」、「視聴覚資料（DVD）が少ない」、「研究に必要な雑誌が足りない」、「雑誌を使うために（分館へ）移動しなくてよくなり便利」、「勉強できるスペースが少ない」、「資料が探しにくい」、「教員の推薦図書コーナーを作ってはどうか」などのご意見が多くありました。頂いたご意見は今後の図書館運営の参考とさせていただきます。必要な資料を見つけれないときは、本館3Fのレファレンスカウンターにお問い合わせください。また、ご要望を頂いた以下のサービスについては既におこなっていますので、どうぞご利用ください。

- ・建物が古いので地震が不安（2004年の夏に耐震工事をおこないました）
- ・延長処理ができたかどうかわかりにくい（2006年夏のシステム更新で改善されました）
- ・予約した本が届いたことを教えて欲しい（OBIRIN-Mail宛にメールを送信しています）
- ・地図を見て本棚に行ったが本を探せない（図書館には数十万冊の本があります。まず検索性PCで検索してご利用下さい。検索方法などが不明な場合は職員にお尋ね下さい）

ご協力ありがとうございました

図書システム更新のお知らせ

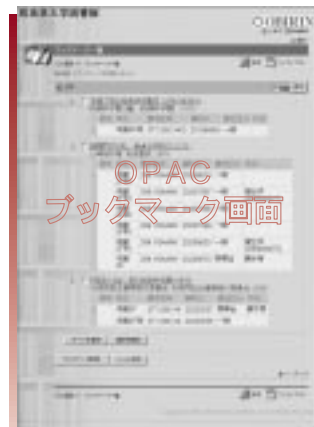
～検索画面の変更とマイライブラリ機能の提供について～

8月末に図書館システムの更新をおこないました。これによりOPAC（図書館蔵書検索）画面や、ログインを必要とするオンラインサービスの画面などが変更されました。

また、新しい機能もいくつか追加されましたので、お知らせいたします。

OPAC

- ・他大学の蔵書を検索できるようになりました。
- ・ブックマーク画面に貸出状況が、表示できるようになりました。
- ・ブックマークした資料をメールで送信できるようになりました。



OPAC
ブックマーク画面

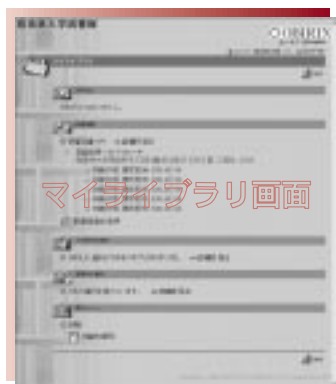
マイライブラリ

「本人利用状況確認」「文献複写依頼」など機能毎にログインが必要だったサービスを、一度のログインで利用できるサービスです。

マイライブラリ画面では、借りている資料の確認や、予約している資料の確認、文献複写依頼などを一括しておこなえます。また、マイライブラリにログインしている間は、ID・パスワードを再入力することなく資料の予約や延長手続きをすることができます。

他にも、条件を登録することにより新着情報が通知されるサービスも新たに追加されました。

マイライブラリにログインした後は、マイライブラリ画面だけでなく、検索画面の右上にも「ようこそ、～さん」と表示されます。マイライブラリを利用した後は、必ずログアウトをして下さい。



マイライブラリ画面

図書館内で利用できるノートパソコンの貸出を始めました！

対象者：桜美林大学の学生・教職員

手続き：図書館本館3F 貸出・返却カウンターで学生証・職員証を提示して下さい

機器：パソコンとACアダプタ。マウスも借りられます

利用時間：開館時間から閉館時間の20分前まで

本館開館時間	貸出受付時間	利用時間
8:30 ~ 21:00	8:30 ~ 20:30	8:30 ~ 20:40

利用可能な場所： 図書館本館内 閲覧席（本館外への持ち出しはできません）

インターネットへのアクセス： 館内無線LANで可能（認証が必要です）

どうぞご利用ください。

データベース講習会について

図書館では、雑誌や新聞記事などの情報を検索することができる様々なデータベースを契約し提供いたしております。これらのデータベースは、必要な情報をすばやく検索でき、研究・調査・論文作成に大変役立ちます。

みなさまに、より活用していただくために、春学期は英文のデータベース、「ProQuest」と「LexisNexis at lexis.com」の講習会を開催いたしました。講習会には教職員・大学院生を中心に多数の方に参加していただきました。今後も図書館ではデータベース講習会の開催をおこなってまいります。ご意見・ご要望など、ぜひお寄せください。

ProQuest (プロクエスト)

ProQuest社が提供するデータベースです。

英文の雑誌や新聞、レポートなどの出版物を検索して全文を読むことができます。

- 第1回：6月21日(水) 4時限 明々館 A-602 参加人数：23名
- 第2回：7月 3日(月) 4時限 明々館 A-603 参加人数：15名
- 第3回：7月 3日(月) 5時限 明々館 A-603 参加人数：10名

LexisNexis at lexis.com (レクシスネクシス)

LexisNexis社が提供するデータベースです。

世界各国の法令・判例などの法律情報を中心に、様々なニュースや企業情報などを調べる事ができます。

- 第1回：7月19日(水) 3時限 明々館 A-602 参加人数：8名
- 第2回：7月19日(水) 4時限 明々館 A-602 参加人数：12名

LexisNexis at lexis.comの契約を2006年9月より正式にスタートしました。

利用にあたっては、IDとパスワードが必要です。希望される方は、図書館ホームページ「データベース」-「LexisNexis at lexis.com」の<注意事項>をご確認ください。



データベースの利用について

データベースは図書館ホームページからご利用いただけます。一部を除き、データベースの利用は学内LANに繋がっている学内のパソコンからに限られます。詳細については、図書館ホームページをご覧ください。